

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2006年 8月号(隔月刊) 第86号

『ダンボール de あそぼう』

2006年5月10日
上福岡児童センター



家庭ではできないダイナミックな遊びを楽しむ 「子供とともに育つ親の会」が開催

「キャー、うわあー！」子供たちの大声で、隣の人と話しをするのも大変なほどの盛り上がり。3人のスタッフのおしゃべりから始まった「子供とともに育つ親の会」が、初めて企画したイベント『ダンボールdeあそぼう!』に、予想を超えた15組の親子が参加してくれました。

「家庭ではできないダイナミックな遊びを楽しむ」、「子供が遊ぶのを見守るのではなく、子供と一緒に真剣に遊ぶ」をコンセプトに、たくさんのダンボールで迷路や階段を作ったり、大きな新聞紙

と紙吹雪でバルーン遊びをしたりと広いスペースを必要とする(そして後片付けも大変な)遊びを中心に行いました。どれも子供たちに大うけで、会場には歓声と笑顔が溢れ、賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

今後は外国籍の親子にも積極的に声をかけ、地域の国際交流の場としても定着するように定期的にイベントを企画する予定です。興味をもたれた方はふじみの国際交流センターまでお問い合わせください。

(文:高橋恭子、写真:青木和雄)

外国籍の子供たちへの日本語指導

学校へのボランティアの派遣：「**取り出し授業**」「**入り込み授業**」
センターで子供たちに日本語、教科指導：「**国際子供クラブ**」

両親、またはどちらかの親が外国籍のため、日本語が出来なかったり、宿題が見てもらえなかったりする子供たちに、ふじみの国際交流センター（FICEC）では「日本語で教える」方法を用いて、「取り出し授業」「入り込み授業」「国際子供クラブ」という3つの形で、日本語や教科内容などを指導している。

日系人労働者や中国残留帰国者に加え、近年は、親が日本人と再婚したため、子供が自国から呼び寄せられる事例が急増している。自分の国では優秀だった子供が、日本の学校に入ると10数点しか取れないといったケースもあり、日本語ができないことが理由とわかっていてもジレンマは大きい。こうした子供たちに、日本でも自国と同じような学習と生活ができるように指導していくのがその目的だ。

ボランティアに支えられている 日本語指導

外国籍の児童・生徒（以下「子供」と両親が日本の学校に入ることを望んでいる場合は、日本の公立学校への受け入れが保障されている。これは、「こどもの権利条約」など、国際条約で国の義務として規定された措置。文部科学省の調査では、「日本語指導が必要な外国人児童生徒数」は、2005年9月時点で、2万692人であり、前年から5.2%の増加となっている。この数字は、調査を開始した1991年の3倍で、いわば日本の学校に入学する外国籍の子供は年々増加する傾向となっている。

朝日新聞（2006年7月9日付）によれば、常勤の日本語指導担当員を独自に配置している都道府県は7、市町村は70しかなく、文部科学省は、自治体の財政状況もあり、「すべての学校に人を配置するのは難しい」という。ふ

じみの地域（富士見市、ふじみ野市、三芳町の2市1町）では、人口の1.2%にあたる約3,000人が外国人だが、日本語教育が必要な子供が各学校に1～2名という少数点在地域であるため、こうした国や自治体の日本語指導の制度が届かない。そのため、ふじみの地域の外国籍の子供への指導は、熱心なボランティアの活動により、支えられている。

取り出し授業

日本に来たばかりなどの理由で、日本語がまったくわからない子供たちにまず行われるのが「取り出し授業」だ。ほかの子供が通常の授業を受けている間、別室で個別に日本語指導や教科補充指導をする。国語、社会、理科等、言葉の面で比較的、授業を受けることが難しい時間を選んで、週5～10時間、2～3名が協力して指導する。その日の学習内容や子供の様子を日報に書き、ボランティア同士で指導の進捗状況などを共有しながら進められる。

入り込み授業

取り出し授業を半年ほど続けると、ある程度日常会話が理解できるようになるが、授業内容を理解するのは難しい。その段階になると、今度は教室と一緒に入って、先生の話し

ている内容をやさしい日本語に言い換えるなどして、「黒子のように」補助する。それが「入り込み授業」だ。日本語の初期の指導から、中級に移行する時期に行われる。ただ、入り込み授業の場合は、子供や学校の希望や状況に応じて行われている。

国際子供クラブ

「国際子供クラブ」は、FICECにおいて毎週土曜日に2時間、日本語指導や、学校からの宿題、定期テストや受験の準備など、取り出し授業や入り込み授業の補習的役割を兼ねて行われている。

FICECが最初に子供に対する日本語指導を始めたのが、この国際子供クラブだ。始まった1997年頃は月2回だったが、2002年に学校5日制が導入されてからは、毎週土曜日、継続的に行われている。日本語初心者が多い時期には、夏休みや冬休みなどの長期休暇中も、日本語指導を行っていて、この夏も、毎日熱心に通ってくる生徒に対応している。

子供たちは、学校ではすぐには同級生たちの輪の中にも入れないが、このクラブに来ると他にも自分と同じ状況の子供がいることを知り、勇気づけられる。そうした意味でも、このクラブが子供たちにとってきわめて重要な場ともなっている。

子供たちの明るい表情が活動の支え

2005年度には、ふじみ野市で5人の子供たちがFICECから派遣された7人のボランティアにより日本語指導を受けた。中には、1時間目を指導してから職場に出勤するというような人もいる。取り出し授業、入り込み授業、国際子供クラブで子供たちの指導に携わっている梶加寿子さんと戸塚成子さんに日本語指導に関わったきっかけなどを聞いた。

梶さんは、近所に引っ越してきた外国人一家と知り合い、役所への手続きや、保育園の送り迎えなどを手伝うことになった。それま



で、まったく外国人との接点がない生活を送っていたため最初はとまどったが、こうした手伝いをすることで、外国人が日本で暮らすたいへんさに、改めて気づいた。情報を求め、ボランティア講座などに参加するうち、10年前のFICECの立ち上げ当初から、活動にも関わることになった。

戸塚さんは、小学校教師を3年前に退職。在職時に、FICECが学校で「国際理解講座」をしていたことからなじみがあり、日本語指導のボランティアを始めた。

この活動を通して梶さんたちが思うのは、日本語指導の大切さに加え、「誰かから応援されている」ということが、いかに子供たちの励みになるかということ。子供たちは、慣れない日本の土地と学校で、大きな不安を抱いている。そんなとき、クラスに1人でも自分のことを気にしてくれる同級生や先生がいると心強い。たとえば、体育や音楽で教室を移動するといった、事情がわからないときの手助けのような小さなことでも、周りの子供が自分のできることを考え協力することで、外国から来た子供たちも孤独感から解放される。そして、日本語指導ボランティアが常に寄り添っていることで、子供たちの心が安定し、日本の生活に慣れていくための意欲が生まれるとのこと。「日本語がわかってくると、子供たちが目に見えて明るい表情になってきます。その表情の変化や笑顔、たくましく生きる姿を見るとすごくうれしい」と、梶さん、戸塚さんは話している。

(取材：上原美樹、斉藤恵子、高橋良子、内藤忍)

外国籍市民の生活実態を調査——ふじみ野市 外国人にとっても住みやすい町づくりの方向を探る

「平成17年度ふじみ野市外国籍市民市政調査」の結果から

いま、日本には約200万人、人口の1.55%の外国人が生活している。平成17年10月に新しい市となった埼玉県ふじみ野市にも、人口の1%以上の1,100人の外国人が暮らしている。こうした外国から来た人たちと日本人とが、お互いに住みよい町として暮らしていくためには、市や市民全体が異文化に対する理解を深め、さらには風俗・習慣などの異なる外国籍の人たちが、日本でどのように暮らしているかといった実態などを把握していく必要もある。

そうした施策の一つとして、ふじみ野市が平成17年度事業として行ったのが、「外国籍市民市政調査」だ。この調査報告書は、今年3月に出されているが、その中からポイントとなる事柄を紹介しておきたい。

懇談会での意見聴取と アンケート調査

NPOのふじみの国際交流センター（FICEC）は、すでに約10年にわたり、外国籍市民への生活支援や国際交流活動の実績があることから、今回の調査は、ふじみ野市から同センターに事業委託する形で行われた。調査の方法は次の2つ。

1) 懇談会

市内在住の外国籍市民による懇談会を開催し、その話し合いの中から、市政に対する意見などを吸い上げる。懇談会は3回開催されたが、進行役（ファシリテーター）を埼玉大学共生社会研究センターの藤林泰氏が務め、毎回13人の外国籍市民が参加して行われた。

2) アンケート調査

ふじみ野市の周辺市町（ふじみ野市、富士見市、三芳町）に在住する50人の外国籍市民に、面接方式でのアンケート調査を実施した。

報告書では、この2つの調査それぞれについて、その結果が詳しく紹介されている。

懇談会から 明らかになったこと

懇談会は、1回2時間、計6時間にわたり、外国人の生活状況や地域に対する感想などの意見が出された。その中で主な内容は次のとおり。

1) 外国人にかかわる課題

・外国人にかかわる問題のほとんどが「日本語がわからない」ことに起因している。日本語ができない場合、学校の先生、行政職員、地域住民などとの意志の疎通ができないため、不安を抱える。

・外国人を対象とした交流の場や、行政の相談サービスもあるが、そうした情報が外国人に届いていない。

・子どもの教育については、ことに大きな問題がある。外国から来た子どもが日本の学校に入った際、きちっとした日本語教育を受けさせないと、ストレスが大きくなる。

・外国人と近隣とのコミュニケーションはおおむね取れていない。ゴミの出し方などについても誤解を受けたりすることがある。

・外国人に住宅を貸す不動産の持ち主が少なく、保証人制度にも苦労している。

2) 外国籍市民が努力すべきこと

- ・日本語を勉強することはきわめて大切。
- ・恥ずかしがらずに、声をあげて近隣の人たちとの関係を築いていく。
- ・市の情報誌などは、こまめに読んで情報収集をしていく。
- ・公民館の催しやサークルに参加するなど、自然な国際交流を心がける。

3) 日本人が努力すべきこと

- ・外国人が孤立してしまわないよう、手を貸して協力していく。
- ・ゴミの出し方などは、実際に種類別にゴミを分類するなどして教える。
- ・困っている外国人には、市の相談窓口などを教える。

・子どもが外国人に偏見を持たないように、いろいろな文化が地域に存在することなどを教えていく。

4) 行政が努力すべきこと

- ・外国人向けのパンフレット等を確実に外国人のもとに届くように努力する。
- ・外国人はひらがなやローマ字は読めることが多い。そこで、市の施設などにひらがなやローマ字で読みを付記するのは有効な方法となる。また、外国人に関係の深い課には、各種情報の翻訳版を置いておく。
- ・日本語能力ゼロの外国籍の子どもについては、1学年下に編入させるなどの優遇措置を考える。
- ・外国籍の子どもの学習を保障するため、日本語指導を制度化したり、ボランティア養成講座などを開いて指導者を増加させる。

アンケート調査から 明らかになったこと

アンケートでは、100項目以上にわたり、生活全般、教育、医療、子育てなどについて、外国籍市民の実態調査を行っている。ここではその調査結果のいくつかを紹介しておきたい。(回答数：50人)

1) 教育についての回答

- ・「日本の学校には入りにくいと思うか」という質問には、「入りにくい」が2人、「そうは思わない」が32人だった。
- ・「日本の学校に不満はあるか」には、「ある」が16人、「ない」が8人だった。その不満の内容は、「いじめ」「学校からの手紙が読めない」「他の親とのコミュニケーションがとれない」など。
- ・「子どもは学校に通っているか」という質問には、88%が「日本の学校に通っている」と答えているが、12%は「どこにも通っていない」と、不登校の状態であることが明らかに

なっている。

2) 医療についての回答

アンケートの回答では、おおむね大きな不満はないように感じられるが、「日本の病院代は高いか」という質問には、「高い」という答えが40、「安い」という答えが10で、やはり高いと感じている人が多い。

3) 生活全般についての回答

- ・「仕事を探すときに差別を感じたことがあるか」という質問には、20人が「ない」と答えているが、14人は「ある」と答えている。
- ・「日本でこれからやってみたいこと」に対する答えとしては、「就職したい」「運転免許が取りたい」「パソコン、漢字の勉強」「旅行がしたい」などの回答があった。
- ・さらに、「ふじみ野市にしてほしいこと」についての回答では、「お知らせを母国語でほしい」「生活相談をしてほしい」「いろんな表示をローマ字にしてほしい」「外国の文化や料理を紹介する機会をつくってほしい」などといった答えがあった。

(取材：篠島幹昌、内藤忍)

ふじみの国際交流センター総会開催

センターの役割と平成17年度の活動実績

平成18年6月18日、ふじみの国際交流センター（FICEC）の総会が開催され、平成17年度の事業報告（予算報告）、そして18年度の事業計画（予算）を審議して、承認された。

在日外国人とセンターの役割

外国人登録者数は年々増加し、平成16年末には197万人、日本全人口の1.55%に達し、昨年度は200万人を越えたと推定される。2市1町の外国人も17年末で3,018人（富士見市1,438、ふじみ野市1,155、三芳町425）となった。これら外国人は言葉の問題や、風俗習慣、文化の違いから日常生活上、悩み事、トラブルを抱えた人たちも少なくない。

FICECはこれら外国人が日本人と差別なく生活できるよう、生活相談・多言語情報の発信・

日本語学習支援等による自立支援と地域住民と外国人との協力・交流を促進し、異文化共生のまちづくりを目指し活動を続けてきたが、今後その役割は益々大きくなると思われる。

センターの開放日数と出入人数

17年度センターは337日間オープンし、ここで活動したスタッフは延べ2,428名、来訪者は延べ2,625名、合計5,053名であった。この内外国人は1,040名である。毎日15名の人がここを訪れ（1日あたり7.2名のスタッフと7.8名の訪問者）、そのうち3名が外国人であったことになる。

なお、FICECの主な事業分野は下表のとおりとなっている。

（文責：荒田光男、内藤忍）

分類	事業名		
外国人の自立支援	生活支援	生活相談	このどこにでも市民みんなが参加することが可能です。
		シェルター	
	日本語指導	日本語教室	
		親子日本語教室	
		取り出し授業	
		国際子どもクラブ	
	多言語情報提供	生活情報誌「インフォメーションふじみの」	
		6カ国語版「生活ガイドホームページ」	
	教育活動	翻訳・通訳	
		DV被害者支援ボランティア養成講座	
ホームヘルパー養成講座			
緊急対策	パソコン教室		
国際理解と国際交流 (共生のまちづくり)	教育活動	防災訓練	
		国際理解講座	
		社会教育（インターンシップ受入れ等）	
	国際交流	国際わいわいクラブ	
		自治体との協働による国際交流イベント	
		自治体・団体等のイベントへの参加	
		料理教室など交流イベント開催	
		外国籍市民の会（HANARO会）	
		国際スポーツクラブ	
	語学教室	デジカメクラブ	
		中国語教室	
		韓国語教室	
		英語教室	
広報活動	ポルトガル語教室		
	ベルシャ語教室		
	機関誌「ハローフレンズ」		
	ホームページ		

ポルトガル語教室でブラジル料理

ピラフ、ステーキ、 豆料理、サラダ

ふじみの国際交流センターでは、英語、中国語、韓国語など、さまざまな外国語教室が開かれています。ポルトガル語教室もそのひとつ。先生はブラジル出身の三矢百合子さんで、生徒は三矢さんから言葉だけではなく、さまざまなブラジルの文化なども教えてもらいます。その一環として、7月11日にはブラジル料理教室が開かれました。

料理の内容は、ピラフに豆料理、ステーキ、



サラダ。ピラフは、お米をたまねぎなどと一緒に炒めてから炊く本格的なもの。ステーキは、牛肉を塩やスパイスに漬けた後で焼いた香ばしいもの。参加者は三矢さんを手伝って、こうした料理を一緒に作り、さらに作り終えた後はブラジルの話題で盛り上がりながらの楽しい食事会となりました。

(レシピ紹介：阿澄康子)

料理の作り方 (材料はいずれも7~8人分)



アホイスシンプレス (ガーリックライス)

材料

米6合：洗って水切り
たまねぎ半分：みじん切り
にんにく3分の1：すりおろす
オリーブオイル大さじ1杯

作り方

- 大きめのフライパンにオリーブオイルを入れ、みじん切りにしたたまねぎをきつね色になるくらいよく炒めてから、おろしにんにくを入れ、さらに炒める。それから、水切りした米を入れて5~6分炒めて、塩大さじ1杯入れる(好みで加減する)。
- フライパンの中身を炊飯器に

入れ、普通のごはんの要領(水加減など)で炊く。

フェジョン(うずら豆料理)

材料

- うずら豆300g：一晩水に浸しておく
- ベーコン120g：細切り
- たまねぎ半分：スライスに切る
- にんにく2片
- 塩、オリーブオイル

作り方

- うずら豆を圧力鍋に入れ、豆の量の2倍の水を入れて15分間煮る。(普通の鍋の場合は、水を途中で足しながらやわらかくなるまで煮る)
- フライパンにオリーブオイルをいれ、にんにく、たまねぎを炒め、ベーコンを加えて炒める。次に煮えたうずら豆を、お玉2~3杯分だけ加えてさらに炒める。
- フライパンの中身を圧力鍋に移してさらに煮る。最後に塩で味付けをする(好みで加減する)。

ビッフィ(ステーキ)

材料

- ステーキ用牛肉1500g
- 漬け込み用たれ：塩大さじ1杯、コショウ大さじ1杯、酢50cc、酒大さじ1杯、すりおろしにんにく大さじ1杯

作り方

肉をたれに30分間漬け込み、油をひいたフライパンで焼く。



サラダクルア

材料

- パルミット(やしの芽の水煮)
- ビーツ(さとうきび)
- レタス、キュウリ、トマト
- ドレッシング：酢、オリーブオイル、塩、コショウ

作り方

パルミットは適当な大きさの斜め切り、ビーツはいちょう切りにする。それにレタス、キュウリを加えてドレッシングで和える。



**センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

**ご寄付をいただいた方々
ご支援ありがとうございます**

●2005年4月～（50音順・敬称略）

青木和雄、阿澄康子、穴沢エミリン、荒田光男、石井ナナエ、伊藤智明、伊藤真弓、岩田ひさよ、岩田仁、上島直美、エスコピアス修道士会、江原工業、海老原夕美、遠藤宏子、大関優、太田原裕、小沢ビクトリア、小原富明、(株)オムテック、葛西敦子、加藤久美子、カトリック教会、金子朝子、金子忠弘、神田順子、金文玉、栗島三千代、候、国際ソロブチミスト、後藤泰博、サークルクムスタカ、庄子一雄、申常午、菅山修二、鈴木譲二、鈴木美佐子、高橋郁子、武田和子、田中正江、チョン玄淑、常西カツエ、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、仲田京子、中村禎作、萩原千代子、橋本弘美、長谷川正江、羽石貴裕、東入間地区遊技業組合、広木加代子、藤林泰、三芳アジア友の会、百瀬混、矢野やす子、山崎友理、若林祥文

●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター（FICEC）のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 ●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 ●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 ●月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ 上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。 ●毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 ●毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 ●毎週月曜日 午前10時～12時 受講料：1回500円</p>	<p>ポルトガル語教室 ブラジルで通訳の仕事をしての方が指導してくれています。 ●毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英会話教室 初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。 ●毎週水曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■編集委員になって2回目の発行になりますが、まだまだまともな原稿は書けず、編集長には迷惑かけっぱなしです・・・いつか編集長をうならす記事(企画、取材、原稿)を書いてみたいと思っています。よろしくお祈りします！（篠島）

■「必要なのは、速く歩くことではなく、歩き続けることだ。」先日、久しぶりに訪ねた母校で出会った言葉です。一期一会。たくさんの人や言葉と出会い、大切にしたいです。（上原）

いす。（上原）

■実は私、初めてのことで、まだなかなかいい仕事はできていません。しかし、これをきっかけにセンターの活動や編集の作業など知ることができ、とても良い経験をさせていただいています。この経験が生かせるよう頑張ります。（高橋）

■今後の記事でいろんな国の料理をとりあげるそうです。レシピもあつたり！おいしいもの好きなので、楽しみです！（川田）

■FICECは、「それぞれができることを無理なくやる」ということがモットーのボランティア団体。私も、「無理なく」の反面、「本当はこうすべきなのに、(時間や労力の制約から)できない」ことがよくあります。そんな状態なのに、「いつも助かっています」と歓迎されるのは心地よくて、そのことに感謝しながら原稿を書いています。こうした活動に、ぜひたくさんの方に参加してほしいと思います。（内藤）

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）
編集委員（50音順）：青木和雄、秋山理恵、阿澄康子、荒田光男、岩田仁、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、高橋良子、内藤忍、長谷川正江、広木加代子、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
Tel：049-256-4290 Fax：049-256-4291
生活相談専用電話：049-269-6450